

千秀だより

横浜市立千秀小学校

4月号

平成26年(2014). 4. 7



「子どもの幸せ感ある学校」を目指して

校長 市川 幸男

暖かな陽気の中、春を待ち望んでいた草花や様々な果樹の花が、校庭いっばいに咲き誇っています。4月7日(月)の入学式では、31名の新入生を迎えました。平成26年度は、全校児童205名、教職員23名でスタートしました。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、新年度を迎え、新たな気持ちで登校してくる子どもたちを校門で待ち受けていると、どの子どもも「おはようございます。」と大きな声で、とびきりの笑顔とともに挨拶をかけてくれました。私は、その笑顔を通して、子どもたちの「学年があがった自信」と、「新たな年への期待」をいっばい受け取りました。今年度も、教職員と子どもの、そして子ども同士のかかわりやつながりを大切にしたい授業や教育活動を展開し、子どもたち一人ひとりが、「この学校・学級でよかった、とても幸せだった。」と思える学校を目指したいと思います。ご支援をお願いいたします。

そのために、次の3つの取組を考えました。

1 子どもが自分から考え、学習していることが分かる授業に努め、できる自信を高めます。

子どもたちは、学習をしていて初めて気付いたとき、みんなの力で分からなかったことが分かったとき楽しさを感じ、できなかったことができるようになったときに喜びを実感すると思っています。そんな日々の授業づくりを、全職員が一つになって進めていきます。そのため全職員による校内研修の充実に努め、「学級のみんながかかわり、学び合える」授業づくりをめざして指導法の工夫と改善に日々努めてまいります。また、定着してきた学習習慣(家庭学習)づくりについても一層進めて参ります。

2 子ども一人ひとりが本来もっているよさを生かしながら、活躍したこと、できたことを認め、褒めて、心の成長を図ります。

子どもたち一人ひとりには、必ずよさや持ち味があります。まずそれをお互いがしっかり認め合いたいと思います。人は、認められていると感ずるからこそ、お互い困っているときに支え合い、その体験を通して仲間としての絆を感じます。そして、支え合って問題を解決できたとき、これまで以上に信頼関係は深まります。また、活躍できたとき褒められることで自分の存在感や充実感が生まれます。これが生きている実感です。このように心の支えがあつてこそ、学校への肯定感になり、「自分の心の居場所」に満足します。この取り組みは、学校だけにとどまらず、保護者、地域にも積極的に働きかけ、家庭で、地域で、共通の子ども育成感をもち、子どもたちとかかわりをつながりをもっていただくように努めます。

3 生きていくために大切な健康や苦しさにも耐える力をこの小学校期に身に付けていきます。

子どもの心身の健やかな成長を願うのは、学校はもちろんのこと、社会全体の願いです。そして、「自分の体は自分で育てる」と子どもたち自身が思うことが大切です。私は、社会でたくましく生きていくための基盤は、健康や体力、そして気力だと考えています。ですから、様々な障害を体験し、それに耐えていこうとする強い心も大切だと思います。この時期に育てたい力の一つです。家庭や地域の方々としてつながりを持ち、積極的に子どもたちにかかわり、支援に努めていきたいと思っています。

以上の三点は、これまでも本校で推進してきたものであり、特段、新しい試みではありません。これまでの実績をもとに、自信をもって「プラス1」して参ります。一年間、千秀小学校の教育活動へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。